学校番号	３０２

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	生活文化	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生活文化の中で特に衣生活を取り上げて、授業を行います。衣服の構成および繊維や布の特徴を知り、自分の好みや活動にあった着心地のよい衣服を製作します。またそのために必要なさまざまな縫製の方法を知り、基本的な技術を身につけます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　被服の構成，被服材料の種類や特徴，被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を養う。
【思考力、判断力、表現力等】
　被服製作やデザインに関する課題を発見し，ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
衣生活の充実を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

観点の趣旨	被服の構成，被服材料の種類や特徴，被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	被服製作やデザインに関する課題を発見し，ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている	衣生活の充実を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	生活文化とは	○日本の生活文化	a:日本の生活文化とはどんなものがあるか、理解する。 b:先人の知恵についてなぜそれが行われたのかを考える。 c:生活文化について、意欲的に取り組む態度をもっている。	小テスト	実習作品 プレゼンテーション	ふりかえり 提出物 授業観察

	衣服の構成　衣服の素材	衣服の構成 衣服製作の基礎 製作のための用具 布地の性質と扱い方 基本の縫い方 縫いしろのしまつ ミシンの使い方	a: 衣服の製作や選択に必要な、人体各部位の計測法を習得している。 繊維の特徴を理解し、適切に材料を取り扱うことができる。 既成服の体型区分とサイズの種類についての基本的知識がある。 衣服の材料について、素材・繊維・糸・布の種類と特徴や加工方法について基本的知識を理解している。 b: 人体の寸法・体型および動作による人体の寸法と形の変化を理解し、動きやすく、着心地がよい衣服について考える。 衣服の種類やその製作を想定しながら、デザインや着用目的に応じた材料について考え、選択し、判断することができる。 c: 衣服の基本的な構成に関心をもち、それらについての基本的な知識の習得に意欲的にとりくむ。 衣服の材料について、その種類や特徴についての知識の取得や理解に意欲的にとりくむ態度をもっている。	小テスト 実技テスト 作品	作品 プレゼンテーション	ふりかえり 提出物 授業観察

2・3学期	洋服の製作	衣服の製作 型紙としるしつけ 仮縫い 本縫い 仕上げ	a: 洋服の製作の実習に際し、布地に合ったミシンの調整ができ、各パーツに適した縫製と基礎的な技術を身につける。 題材に応じた型紙の作成、裁断、仮縫い・補正、縫製、仕上げを行う技法を習得しているとともに、計画に従い能率的に製作を行うことができる能力を身につけている。 洋服の種類と特徴、布地の裁断法、仮縫い・補正、縫製、仕上げなどに関し、基本的な知識がある。 型紙や布地により、必要な布地使用量について理解する。 b: 具体的な衣服の製作にあたり、着用目的・着用者の個性・流行などを考え適切なデザインを選択することができる。またその題材に応じた裁断・製図法や材料、技法・用具について考え、選択し、判断することができる。 実習題材のデザイン・材料などに関し個人の創意・工夫を表現することができる。 c: 洋服の製作技法について関心をもち、具体的な洋服の製作に意欲的にとりくむ態度をもっている。	実技テスト 作品	作品 ふりかえり 発表	ふりかえり 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度